



◀水木さん夫婦に記念品が贈られた



買い物客 200 万人突破!

みょうが館

みょうが館では6月3日、買い物客が200万人を突破。200万人目となった夫婦に、新鮮野菜の詰め合わせと花束をプレゼントしました。

200万人目となったのは、能代市河戸川の水木清孝さん(53)と晴美さん(49)夫婦。「いつも野菜などを買いにきている」というみょうが館の常連さんは、この日も普段通りの買い物で来店し、200万人目を告げられました。清孝さんは「鮮度がよく、旬の野菜、おいしい野菜が揃っている。野菜はここでしか買っていない」と話していました。

平成9年8月にオープンした同館では、開店当初150人程度だった買い物客も、現在では350人前後まで増加し、27年度は売上高1億3千万円を売り上げ、買い物客は約12万6千人となり、近年は売上高、買い物客ともに増加傾向となっています。

同館を運営している、はまなす産直会の中川静子会長は「これからも来店者が楽しんで買い物ができる産直にしていきたい。今後もお客様にとって気軽に立ち寄れる産直にしたい」と喜びと今後の抱負を話してくれました。

出荷規格の確認と防除の徹底を呼び掛ける

園芸部会

園芸部会(畑山悦雄部会長)は6月20日、トマトの収穫の前に営農部会議室にて目揃会を開催し、生育状況や出荷規格について確認しました。

目揃会には生産者やJA、地域振興局普及課、市場関係者など約20人が参加。はじめにトマト部門の石川博孝さんが「春からの好天で生育は順調にきている。今年は量より質を重視して出荷に努めたい」とあいさつ。また、普及課職員からは「梅雨入りし、湿度の高い日が続くと、灰色かび病の発病が増えてくることが予想される。また害虫の発生も多い見込みなので防除を徹底してもらいたい」と生産者に呼び掛けました。



▲規格の確認をする生産者



▲早めの防除を呼びかける担当者

収穫に向けて栽培管理を確認

みょうが部会

みょうが部会(工藤寿部会長)は6月3日、主力作物である白神みょうがの栽培講習会を能代市工業団地交流会館で開催し、生育状況や今後の管理について理解を深めた。

講習会には生産者やJA、地域振興局普及課職員ら約30人が参加。講習会では普及課職員から、萌芽は昨年より1週間程度遅い5月15日頃から確認されていることが報告され「6月下旬頃からの株間引きと花芽分化する7月上・中旬から追肥を行うとともに、近年発生が多くなっている、葉枯病、軟腐病などの病害虫防除にも努めてほしい」と今後の栽培管理について呼びかけました。

